

子供にとって母親とは…

母と子のきずな

5月5日は「こどもの日」。そして、第二日曜日の13日は「母の日」です。

母親と子供——家庭の中でいちばん接する時間の多い間柄です。母親は子供に対し、どのような接し方をし、子供はどんな母親を望んでいるのでしょうか。

子供の幸せは明るい家庭から——「こどもの日」「母の日」にちなんで、母と子のきずなにスポットを当ててみましょう。



▲昨年の和納保育園の運動会から

時とともに変わる 母親の立場

家庭内暴力や非行が、依然として増えている昨今、「母親としてどうあるべきでしょうか？」とよくきかれますが、正直いって、答えに窮してしまいます。

といいますが、わが家は、今年二十二歳になる長女（会社員）をトップに、長男（二十歳、大学一年）、次女（十五歳、中学三年）、三女（十歳、小学四年）次男（九歳、小学三年）と、五人もの子どもがいます。

大切に… スキンシップを

二十年間、子育てに明け暮れてきたわけですが、いまだにときどき立往生し、母親として無力であることを痛感させられるからです。

わたしの経験からいいますと、長男や長女を育てた時代は、いわゆる「教育ママ」が主流をなしていたころでした。ところがいまは「教育ママ」もすっかり影をひそめ、新たな時代を迎えているように思えます。



青少年問題審議会委員 小野清子

時代の流れとともに、母親の立場やあり方は少しずつ変わらざるをえません。その流れにうまく対処していくのが、母親のいちばん大切な役目なのかもしれません。現在は、母親に対する要望も多様化し、母親にとって「難しい時代になったな」と、次男を見ながら、思わずひとりごとをつぶやいてしまうこのごろなのです。

人間性を豊かにする 人との触れ合い

きつい人、いじわるな人——いろいろな人との触れ合いを通して、子供は人間としてのやさしき、矛盾、醜さなどを肌で覚えていくのではないのでしょうか。

ときには、けんかをして、そこから心の痛みを知ることもあるでしょう。

何事も子供と真剣にとらえよう

ところが、いまは核家族でそのうえ共働きのご家庭がかなりあります。いつも両親が

理想的な母親

家庭生活を重視する 友人のような母親

子供たちは、どんな母親を望んでいるのでしょうか？

世界青年意識調査(第三回)では、各国の十八歳から二十四歳の人々に理想的な母親像を聞いています。

日本の青年が望んでいる母親はというと、家庭生活を重視する友人(いちばん下の子が六歳から十七歳の母親)を望ましている割合が多くなっています。

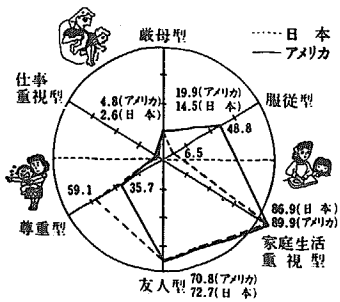
視し、子供の行動を尊重する友人のような母を理想としています。

日本の青年が「子供のしたいとおりにさせる母」すなわち「尊重型」の母親を望んでいるのに比べ、アメリカの青年は「自分の考えに従わせようとする母」つまり「服従型」が上位の理由です。

が仕事に就いている割合は約五〇%。

就業理由はというと、年代によって違いますが、子育て真っ最中の三十五歳～三十九歳の主婦の場合、生活費のたしにする、家にもついていたくない、子供の学費にする、が上位の理由です。

理想の母親像



(注) 質問は「厳母型」か「友人型」、「服従型」か「尊重型」、「家庭生活重視型」か「仕事重視型」に分かれており、二者択一の方法をとっています。

昭和58年実施
世界青年意識調査(第3回)

意識の差がある 日本の母と子

子供(10歳～15歳)は、何か困ったことがあったとき、母親にどの程度相談するのでしょうか？

日本の母親は「子供は相談すると思う」が90.5%ですが、子供のほうは「母親に相談する」が60.3%。母と子の間には、かなりの意識の差があり、外国と比較してみても明らかです。

「母親と子供はお互いに理解しているか」についてみると、日本の場合、母も子も68%となっており、各国と比べると低い理解度となっています。

母親と子供は血がつながっているから、気心が知れている——しかし、いくら母と子でも、お互いの心を知るにはコミュニケーションが必要です。お母さん、子供がいろいろ話をしてきたり相談を持ちかけてきたら、心を開いてじっくり話を聞いてあげましょう。

子供とのふれあい(親子の対比)

アンケート	対象	日本	アメリカ	イギリス	フランス	タイ	韓国
子供さんが相談すると思うか	母親	90.5	95.9	96.6	90.1	81.4	82.9
お母さんに相談するか	子供	60.3	85.0	78.3	78.1	75.9	52.8
お母さんのことをよく理解していると思うか	母親	67.8	91.6	89.4	72.9	94.6	76.4
お母さんがわかってくれていると思うか	子供	68.9	91.3	83.3	82.6	88.5	76.2

昭和54年実施 国際比較日本の子供と母親

(参考文) 日本広報協会刊「広報通信」から転載。